令和６年度　　公民科　　「公共」シラバス

単位数	2	学科・学年・学級	情報コミュニケーション科　第２学年・７組
教科書	詳述公共（実教出版）	副教材等	なし

１　学習の到達目標

・現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。（知識・技能）
・現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。（思考・判断・表現）
・よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や，公共的な空間に生き国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。（主体的に学習に取り組む態度）

２　学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第１学期	4	第１章 社会を作る私たち	１生涯における青年期の意義	・人生における青年期の意義を理解する。 ・青年期の特徴を理解する。	行動観察 発問への対応 ノート点検 中間考査
		第２章 人間としてよく生きる	１ギリシアの思想 ２宗教の教え	・理想的な人間の生き方についてのソクラテス，プラトン，アリストテレスの主張を理解する。	
		第３章 社会とは何か	１人間の尊厳と平等 ２自由・権利と責任・義務	・人間の尊厳と平等といった原理の背景にある考え方を理解する。	
	5	第４章 民主国家における基本原理	１人権保障の発展と民主政治の成立 中間考査	・民主政治の誕生と発展について理解する。 ・民主政治の意義と課題について理解する。 ・議院内閣制・大統領制をはじめとする各国の政治制度について理解する。	
	6	第１章 日本国憲法の基本的性格	１日本国憲法の成立	・二つの憲法の特徴と相違点について理解する。 ・憲法の最高法規性について理解する。	行動観察 発問への対応 ノート点検 期末考査
			２平和主義とわが国の安全	・日本の安全保障政策の展開について理解する。 ・安全保障政策の課題について理解する。	
			３基本的人権の保障	・日本国憲法が保障する基本的人権について理解し、人権に関する現実社会の課題を理解する。	
	7	第２章 日本の政治機構と政治参加	１政治機構と国民生活 ２人権保障と裁判所	・国会と内閣の構成について理解する。 ・司法権の独立や裁判について理解する。	
			３地方自治 ４選挙と政党	・地方自治の本旨について理解する。 ・各選挙制度の特徴と課題について理解する。	
			５政治参加と世論 期末考査	・マス・メディアやSNSの役割と政治にもたらす影響について理解する。	
第２学期	9	第３章 現代の経済社会	１経済社会の形成と変容	・資本主義経済が成立，発展してきた時代背景を確認する。	行動観察 発問への対応 ノート点検 中間考査
			２市場のしくみ	・市場経済システムを機能させる役割を政府などが担っていることについて理解する。	
			３現代の企業	・生産の主体である企業の形態や活動，株式会社の特色，グローバル化による企業の経営環境の変化や課題などについて理解する。	
			４経済成長と景気変動	・国家の経済活動の規模をあらわし，経済の動きの指標としてのGDP，国富について理解するとともに，経済成長，景気循環，物価について理解する。	
	10		５金融機関の働き	・中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解する。	

			６政府の役割と財政・租税 中間考査	・政府の財政活動の役割，財政政策，租税の仕組みについて理解するとともに，財政に関わる課題について理解する。	
	11 12	第４章 経済活動のあり方と国民福祉	１日本経済の歩みと近年の課題 ２中小企業と農業 ３公害防止と環境保全 ４消費者問題 ５労働問題と雇用 ６社会保障 期末考査	・歴史的な事象が日本経済に与えた影響を，統計資料を基に考える。 ・経済の二重構造に注目して日本経済のあり方を考える。 ・経済成長と公害問題との関係を考える。 ・必要な法整備と消費者の責任について考える。 ・日本的雇用形態の変化や，ワーク・ライフ・バランスについて考える。 ・少子高齢化が進行する中で，望ましい制度のあり方を検討する。	行動観察 発問への対応 ノート点検 期末考査
学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第３学期	1 2 3	第５章 国際政治の動向と課題 第６章 国際経済の動向と課題	１国際社会における政治と法 ２国家安全保障と国際連合 ３冷戦終結後の国際政治 １国際経済のしくみ ２国際経済体制の変化 ３経済のグローバル化と金融危機 学年末考査	・国内政治や国内法との比較で考える。 ・領土問題が生じる背景と望ましい解決方法について考える。 ・対立構造の変容から，国際社会の力学の変化を考える。 ・大国の動向や，国家対国家の枠組みに収まらない対立構造について考える。 ・比較生産費説を検討して考える。 ・貿易収支の数値から一国の貿易の動向を確認する。 ・ドーハラウンドにおける先進国と途上国の対立や，二国間交渉への傾倒などから課題を考える。 ・ヒト・モノ・カネが自由に移動した結果，世界はこれまで以上に緊密化したことを確認する。	行動観察 発問への対応 ノート点検 期末考査

３　評価の観点

知識・技能	・各単元の学習内容について、その意義・重要性・特徴・社会や各人に与える影響・課題などについて理解できているか。 ・資料の内容や主張・データを読み取ることができているか。
思考・判断・表現	・各単元の学習内容について、多面的・多角的に考察し、複数の視点から表現できているか。
主体的に学習に取り組む態度	・よりよい社会の実現を視野に、各単元の学習内容についての深い理解を通して、自ら主体的に社会に参画する自立した主体についての自覚を深め、それらに対して意欲的に追究しているか。

４　評価の方法

中間・期末の定期考査、ノート、授業プリント、課題、レポート、活動の様子の観察、口頭発表などもとに、『知識・技能』、『思考・判断・表現』、『主体的に学習に取り組む態度』の３つの観点から総合的に評価をする。

５　担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

・現代の社会の様子を知るためには、毎日、新聞やニュースを見ることが大切です。常に問題意識を持ちながら最新の情報に触れることが、そのまま授業内容にもつながっていきます。
・復習を重点に家庭学習に臨んでください。授業当日、家庭で最低３０分以上の復習をやり授業内容をノートにまとめるよう努力しましょう。また、授業前に教科書に目を通すことも大切なので、一度読んだ上で授業に臨みましょう。
・ノートは単に板書事項を写すだけではなく、先生が話した内容や自分で気づいたこと、考えたこと、他者の意見なども記入するなどの工夫をし、後で学習の過程が把握できるようにしましょう。